

船舶事故等調査報告書

平成22年12月16日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009仙第123号	
事故等種類	養殖施設損傷	
発生日時	平成21年12月2日 04時00分ごろ	
発生場所	宮城県石巻市網地島北方沖 陸前黒崎灯台から真方位286° 2.0海里付近 (概位 北緯38° 16.9′ 東経141° 28.6′)	
事故等調査の経過	平成21年12月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（仙台事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報		
船種船名、総トン数	漁船 第十八 <sup>ほうよう</sup> 宝洋丸、18トン	
船舶番号、船舶所有者等	MG2-5468（漁船登録番号）、個人所有	
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士 甲板員、操縦免許なし	
死傷者等	なし	
損傷	本船 プロペラ3枚に曲損、バルバスバウに擦過傷 養殖施設 損壊、ロープ損傷	
事故等の経過	本船は、船長及び甲板員ほか2人が乗り組み、石巻市石巻漁港に向け、約10.5ノットの速力で石巻市牡鹿半島と網地島との間の水域を北西進中、単独で船橋当直に当たっていた甲板員が、反航船を避けようとして針路を網地島寄りに転じたところ、養殖施設に向けて航行する態勢となったが、同施設の存在に気付かず、平成21年12月2日04時00分ごろ網地島北方沖の養殖施設に乗り入れた。	
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北、風力 2 海象：平穏、潮汐 ほぼ高潮時	
その他の事項	船長は、就寝中であつた。	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし なし 本船は、牡鹿半島と網地島との間の水域を北西進中、船橋当直の甲板員が、反航船を避け、針路を変えて航行していたところ、養殖施設の存在に気付かず、同養殖施設に進入したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が、牡鹿半島と網地島との間の水域を北西進中、船橋当直の甲板員が、反航船を避け、針路を変えて航行していたところ、養殖施設の存在に気付かなかつたため、養殖施設に進入したことにより発生したものと考えられる。	